



まさひで 第26号 2008年8月4日発行
もはら 正秀の市議会だより 8月号



もはらさん、「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されませんでした。富岡製糸場は大丈夫なんでしょうか？

クマ吉くん、世界遺産登録のための審査は、年々厳しくなっているんだ。富岡製糸場が世界遺産になるには、まだ克服すべき課題があるんだよ。



富岡製糸場が世界遺産になるための新たな課題について

既にご存知と思いますが、7月にカナダで開かれたユネスコ世界遺産委員会で、日本政府が推薦した『平泉の文化遺産』の世界遺産登録が認められませんでした。「日本の候補地としては初めての落選」という予想外の出来事であったことから、富岡製糸場の世界遺産登録を目指す富岡市にとっても、大きな衝撃を与えるニュースでした。

これまで日本政府が推薦した候補地は全て世界遺産に登録されてきたのに、今回の『平泉の文化遺産』はなぜ登録が認められなかったのでしょうか？ 専門家の分析では、その主な理由は2点あるといわれています。

まず1つ目の理由は、「世界遺産の数が多くなったことから、ユネスコが審査を以前よりも厳しくしている」点です。多くの専門家はユネスコがこれまでの方針を大きく変え「今後は世界遺産の数をあまり増やさない方向で進める」と見えています。数年以内の世界遺産登録を目指す富岡市にとって、この点はたいへん気になる点です。

さらに2つ目の理由として「平泉の文化遺産の価値を、ユネスコに証明できなかった」点があげられます。世界遺産登録するためには、ユネスコに対し「世界遺産としての普遍的な価値」を証明しなければなりません。富岡製糸場の場合、ここで作られた生糸が、日本の近代化を支えただけでなく、欧米の国々の歴史や経済にどのような影響を与えたかを証明できるが、今後世界遺産登録の重要な鍵となりそうです。

平泉の落選は予期しない出来事でした。しかし、昨年1月に富岡製糸場が国内暫定リスト入りしたことで、「世界遺産は時間の問題」という楽観的なムードも出始めた中、あらためて世界遺産登録の難しさを実感できたことは、富岡市にとって決してマイナスではありません。平泉の事例を徹底的に研究し、少ないチャンスを射止めるために、万全の準備をすることが、いま富岡市に求められているのではないのでしょうか。

★6月議会でのもはらの一般質問その1★ 登下校時における児童の安全対策について

★もはら★今年度、登下校時における児童の安全確保を目的としたスクールバスの運行を市は目指しています。しかし、市内の全児童およそ3000名のうち、市が選んだ60名だけに、最高の安全対策であるスクールバス事業を行い、残りの2940名には何ら新しい安全対策が施されないのは、公平性という観点から大きな問題があると私は考えますが、当局は公平性についてどのようにお考えなのでしょう？

●市長●今後「スクールバスの試行に関する協議会」の中で、ご指摘いただいた問題点を含め、十分に検討したい。

スクールバス事業について私はこう考えます！



今年度、登下校児童の安全対策予算は約500万円です。本来ならば、この予算は3000名の全児童のために使うべきなのに、今回予定されているスクールバス事業では、「市が選んだ60名だけで、この500万円を全て使い、残りの2940名には1円も使われない」こととなります。我が子の安全を願う気持ちは、通学路の距離など関係なく、どの保護者の方も同じです。市民のみなさんが納めた「税金」で行う安全対策事業ならば、まずは「公平性の観点から問題がないことが原則」と私は考えます。

上記質問の後、公平性についての回答がいただけなかったことから、当局に対し、さらに同じ質問を繰り返しました。しかし、市長・教育長のいずれからも、この点について一切説明をいただけませんでした。誠に残念な結果ですが、今後も全ての児童に対し公平に行える安全対策事業を優先するよう議会で強く訴えて参ります。

一般質問その2★Uターン就職希望者への就職支援について

★もはら★国の人口が減少し始めた現在、今後いかにして人口を維持していくかは富岡市にとって重要な課題です。その対策として大学進学のため市外に出た若者達に、卒業後故郷で社会人になってもらうことが最も有効であると私は考えます。

しかし、市外に進学した若者にとって、地元で就職活動をするのは容易ではありません。現在の就職活動はインターネットで情報収集を行うのが主流ですが、ネット上で自社の新卒者採用情報などを公開している地元企業は少数で、Uターン就職を希望しても情報を入手できず、結局どんな企業があるのかさえ分からぬまま、故郷での就職をあきらめる若者も少なくありません。

今後Uターン就職希望の若者達に、地元企業の採用情報などをインターネットで広く伝えていくような方法が実現できれば、若者達だけでなく、有能な人材を求める企業や人口減少に歯止めをかけたい富岡市にとっても、大きなメリットが生まれますが、Uターン就職希望の若者達と地元企業の接点をつくる試みに、市として取り組むお考えを当局はお持ちでしょうか？

●市長●Uターン就職を希望する若者達に、市内企業の情報を広く伝えることは必要不可欠と考える。現在工業課で、市内企業を紹介するホームページを作成しているの、こうしたページに採用情報を載せ、市のホームページとリンクさせる方法に取り組んでみたい。